

目 次

(1) 学生確保の見通し	・・・	p.2
① 学生確保の見通し	・・・	p.2
② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	・・・	p.4
(2) 人材需要の動向等社会の要請	・・・	p.5
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究 上の目的(概要)	・・・	p.5
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向 等を踏まえたものであることの客観的な根拠	・・・	p.6

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通し

① 学生確保の見通し

高崎健康福祉大学では、令和5年度より健康福祉学部医療情報学科の入学定員を70名から80名に、健康福祉学部社会福祉学科の入学定員を60名から75名に、農学部生物生産学科の入学定員を100名から75名に変更する。この変更に対する考え方および定員を充足する見込みがあると判断した理由について、根拠となる客観的なデータをもとに説明する。

当該3学科の直近5年間の入学志願状況を示したものが表1～表3である。この5年間の充足率（入学定員に対する入学者数の割合）をみると、医療情報学科では概ね110%～130%（平均122%）、社会福祉学科では概ね120%～140%（平均133%）と両学科とも高めの値となっている。一方、生物生産学科においては70%～99%（平均88%）と、学科創設以来一度も100%に達していない。志願者数、受験者数ともに、生物生産学科は他の2学科を概ね100名程度、合格者数においては概ね130名程度上回っているものの、これが入学に結びついていないのが現状である。

<医療情報学科>

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員	70	70	70	70	70	70
志願者数	292	248	329	260	270	279.8
受験者数	289	246	326	256	268	277.0
合格者数	176	169	107	109	115	135.2
倍率	1.6	1.5	3.0	2.3	2.3	2.2
入学者数	93	85	79	77	92	85.2
充足率	133%	121%	113%	110%	131%	122%

表1 医療情報学科の直近5年間の入学志願状況

<社会福祉学科>

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員	60	60	60	60	60	60
志願者数	290	278	368	275	280	298.2
受験者数	285	271	364	271	274	293.0
合格者数	188	177	107	108	108	137.6
倍率	1.5	1.5	3.4	2.5	2.5	2.3
入学者数	72	79	83	79	86	79.8
充足率	120%	132%	138%	132%	143%	133%

表2 社会福祉学科の直近5年間の入学志願状況

〈生物生産学科〉

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
入学定員	—	100	100	100	100	100
志願者数	—	476	384	320	376	389.0
受験者数	—	464	377	317	368	381.5
合格者数	—	260	250	253	293	264.0
倍率	—	1.8	1.5	1.3	1.3	1.5
入学者数	—	99	96	70	85	87.5
充足率	—	99%	96%	70%	85%	88%

表 3 生物生産学科の直近 5 年間の入学志願状況

表 1～表 3 の合格者数と入学者数から歩留まり率（合格者数に対する入学者数の割合）を算出したものが表 4～表 6 である。これをみると、医療情報学科と社会福祉学科は、生物生産学科に比べ概ね 2 倍程度の歩留まり率となっていることがわかる。その理由としては、県内受験者の比率が高い点、学校推薦型選抜受験者が多く第 1 志望としている受験者が多い点が挙げられる。

〈医療情報学科〉

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
合格者数	176	169	107	109	115	135.2
入学者数	93	85	79	77	92	85.2
歩留まり率	53%	50%	74%	71%	80%	66%

表 4 医療情報学科の歩留まり率

〈社会福祉学科〉

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
合格者数	188	177	107	108	108	137.6
入学者数	72	79	83	79	86	79.8
歩留まり率	38%	45%	78%	73%	80%	63%

表 5 社会福祉学科の歩留まり率

〈生物生産学科〉

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
合格者数	—	260	250	253	293	264.0
入学者数	—	99	96	70	85	87.5
歩留まり率	—	38%	38%	28%	29%	33%

表 6 生物生産学科の歩留まり率

表1～表3の入学者数をそのまま用い、今回変更後の新しい入学定員を当てはめた場合の充足率を算出したものが表7～表9である。これをみると、平均充足率が医療情報学科で107%、社会福祉学科で106%、生物生産学科で117%となっている。勿論、今後も学生確保のための努力を引き続き行っていくことが大前提となるが、今回の入学定員変更によって、生物生産学科の充足率100%の達成が見込めると同時に、近年高止まりしていた医療情報学科と社会福祉学科の入学定員超過率の改善が図れる見通しである。

これらのことから、今回の定員変更により、今後の学生確保のためによりバランスのとれた構成になるものとする。

〈医療情報学科〉

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
入学者数	93	85	79	77	92	85.2
充足率	116%	106%	99%	96%	115%	107%

表7 医療情報学科の変更後入学定員で算出した充足率

〈社会福祉学科〉

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員	75	75	75	75	75	75
入学者数	72	79	83	79	86	79.8
充足率	96%	105%	111%	105%	115%	106%

表8 社会福祉学科の変更後入学定員で算出した充足率

〈生物生産学科〉

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員	—	75	75	75	75	75
入学者数	—	99	96	70	85	87.5
充足率	—	132%	128%	93%	113%	117%

表9 生物生産学科の変更後入学定員で算出した充足率

② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学では、総合型選抜および学校推薦型選抜の合格決定者全員に対して充実した入学前教育を実施しており、学科へのスムーズな適応を図るとともに、入学後については、学習支援センターによる基礎科目の補講及びアドバイザー制による専門科目の履修指導や学生個々のニーズに応じた学習支援及び学生の一般生活支援を少人数単位で行ってきている。

また、学科ごとに国家試験対策講座や各種資格取得のための対策講座を実施し、学科一丸となって資格取得対策に取り組んでいる。学生を確保するために最も必要なことは、教育内容を充実させ成果を上げることである。本学では、教授会において国家試験対策や各種資格取得対策の報告を定期的に行うことにより検証を行っている。その成果として、本学は全国でも毎年トップレベルの合格実績を残している。

これら本学の特徴を集約した情報を、毎年入試広報センターを中心に職員、教員が協働して高校訪問を行い、また、オープンキャンパス、入試説明会（ガイダンス）等で直接受験生にPRを行うことで、安定的な入学者数を確保している。

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

〈医療情報学科〉

健康・医療に関する専門知識と先端情報技術を兼ね備えた健康・医療分野の情報化を担う人材を養成することを目的としている。

専門的な医療情報の知識と高度なコンピュータ運用能力を同時に学べる学科であり、2年次からは「医療コース」と「情報システムコース」のいずれかを選択することになるが、両コースとも健康医療に関する専門知識とICTスキルの両方を学び、「医療コース」では地域の医療機関などで診療情報管理士、医療事務管理士となる人材を、「情報システムコース」ではIT企業のSE、健康医療関連企業の情報技術者、一般企業のIT部門などで活躍する人材を養成する。

本学科で取得できる資格は、診療情報管理士受験資格、医療事務管理士、応用情報技術者、基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント、ITパスポート、Webクリエイター、Excel表計算技能、司書などとなっており、群馬県では唯一の診療情報管理士の資格認定大学である。

〈社会福祉学科〉

社会福祉に関する専門知識と実践的技能を兼ね備えた社会福祉分野を担う人材の育成を目的としている。

社会福祉士の国家資格をベースに、同時に介護福祉士の資格取得を可能にした「介護福祉コース」と、社会福祉士及び精神保健福祉士の資格取得を可能とした「社会福祉コース」の2コースを選択することができ、福祉マインドを持った福祉・介護の専門職や企業人として活躍する人材を養成する。

本学科で取得できる資格は、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格、福祉レクリエーションワーカー、初級障がい者スポーツ指導員、司書などとなっている。

<生物生産学科>

農業の魅力を発信し、農業イノベーションの創出に貢献し、グローバル(Global and Local)な視野に立ち、地域農業に貢献できる人材を養成することを目的としている。

生命の基礎を学び、食料・食品の生産、開発、流通・販売、ブランディング、マーケティングに至る一連のサイクルを学ぶカリキュラムを用意しており、2年後期から段階的に下記の4コースに分かれ、それぞれの専門性を磨いていく。

○生命科学コース

生命科学を基に国際的に評価される基礎から応用までの研究を行い、最先端の遺伝子工学や細胞工学の技術を駆使し、地域との連携を目指す。研究と教育を通して、生命科学を理解し、実験の基礎を身に付け、農業生産・製薬や医療・環境問題の解決など生命科学分野で専門家として活躍できる人材を養成する。

○作物園芸システムコース

作物学、園芸学を基礎として、ICTやゲノム解析、生体画像計測、高機能グリーンハウス、ドローン、地理空間情報などの先端技術を活用したスマート農業の研究・開発・指導などに携わる人材を養成する。また、地球環境、循環型社会構築等の問題にも取り組む。

○フードサイエンスコース

食品化学と生命科学を基礎として、食品に関する発酵・加工・分析・安全を学び、人々に安全安心を届ける食品開発や食品衛生に携わる人材を養成する。本コースで取得可能な資格として、食品衛生管理者・監視員の任用資格、HACCP管理者がある。

○アグリビジネスコース

世界的な食料の偏在と環境や資源の保全を一体の問題として捉え、企業と社会の利益を融合した新しいアグリビジネスのあり方を学ぶための文理融合型コースである。本コースで取得可能な資格として、食の6次産業化プロデューサーがある。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

<医療情報学科>

令和4年3月卒業者(83名、うち進学2名)の就職状況は、就職希望者数76名に対し、就職者数76名で就職率は100%となっている。内訳は、プログラマ・SEが34.2%、病院の総合職・事務職が21.1%、病院以外の総合職・事務職が19.7%、診療情報管理士が5.3%、医療事務が5.3%、その他が13.1%となっており、医療知識とITスキルを身につけた学生が、医療健康分野やIT分野にとどまらず幅広い分野に就職していることは、本学科が目的とする人材養成が確実に行われている証拠である。

<社会福祉学科>

令和4年3月卒業者(70名)の就職状況は、就職希望者数67名に対し、就職者数67名で就職率は100%となっている。内訳は、支援員・指導員・相談員が32.8%、介護職員が22.4%、

医療ソーシャルワーカーが 11.9%、精神保健福祉士が 6.0%、公務員（福祉職）が 3.0%、その他が 23.9%となっており、取得した資格を生かした職種への就職が多く、本学科が目的としている人材養成が確実に行われている証拠である。

<生物生産学科>

生物生産学科については、平成 31 年 4 月に開設されて、令和 5 年 3 月に初めての卒業生を送り出す。その為、令和 4 年 6 月 27 日時点の就職内定状況となるが、卒業予定者 96 名のうち就職希望者が 96 名で内就職内定者が 66 名となっており、就職内定率は 68.8%となっている。現時点で高い内定率を出していることは、本学科が目的とする人材養成が確実に行われている証拠である。